

「第8回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和2年8月27日（木）13時00分

都庁第一本庁舎7階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第8回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日は、感染症の専門家といたしまして東京都医師会副会長でいらっしゃいます猪口先生にご出席をいただいています。本日もよろしくお願いいたします。

会議につきましては、お手元に配付してあります資料に従って実施をして参ります。

意見交換につきましては、いつものように、感染の状況等の分析と、都としての対応の二つに区切って実施をいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速ではありますが、「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、猪口先生の方からご説明をお願いいたします。

【猪口先生】

東京都医師会の猪口です。よろしくお願いいたします。

「感染状況」の方からお話をさせていただきます。

総括コメントは後にして、細かいコメントを、個別のコメントを先にお話しさせていただきます。

「新規陽性者数」、①です。

新規陽性者数の7日間平均は256人から225人に減少しているものの、依然高い水準で推移しており、注視する必要があります。

増加比も88%と、前週に引き続き、100%を下回る水準で推移していますが、減少の速度は、前週の82.1%より緩やかとなりました。

現在、院内感染が発生しているものの、第一波のような大規模なクラスターの発生が見られていません。院内感染の拡大防止、対策が功を奏していると考えられます。

4つ目に飛びます。

8月18日から8月24日までの報告では、年代別割合は、10歳未満、2.1%、10代、3.0%、20代、33.9%、30代、21.6%、40代、13.8%、50代、11.8%、60代、5.9%、70代、3.7%、80代、3.2%、90代、1.0%であり、前週では40代以上と10代に広まっていると申しましたが、それと比べて傾向に大きな変化はありません。

経路別の割合では、全世代合計で、同居する人からの感染が41.1%と最も多く、次いで職場が17.2%となり、会食は9.2%、接待を伴う飲食店等8.9%、施設7.1%の順でした。

前週に引き続き、同居する人からの感染が高い割合でありました。

年代別で見ると、感染経路別の割合は、10代以下は同居する人たちからの感染が69.2%と最も多く、次いで保育園・学習塾などの施設での感染が11.5%となっていました。

20代から60代では、同居する人からの感染は、20代及び30代の31.7%に対し、40代から60代は50%でありました。

70代以上では、施設での感染が41.4%と最も多く、次いで同居する人からの感染が36.2%でありました。

8に飛びます。

今週は、同居する家族からの感染が多数報告されるとともに、友人との会食、カラオケ、バーベキューなどによる感染や、職場内におけるクラスター発生例も報告されており、家族以外との交流における基本的な感染防止対策の徹底が、家族内へ感染を持ち込まないために重要であります。

10に行きます。

8月18日から8月24日までの新規陽性者数は1,553人で、保健所別届出数は、港区が134人、8.6%と最も多く、次いで、豊島区110人、7.1%、新宿区107人、6.9%、そして、大田区、杉並区と続いております。

新規陽性者の多い地域が拡大し、島しょを除く都内全域で発生しています。

「#7119における発熱等相談件数」です。

(2)の方の7日間平均は、69.7件と、前週81.7件でしたので、減少傾向にあります。

③の「新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比」に移ります。

接触歴等不明者数は、7日間平均で約137名と前週と比較すると減少しているものの、依然高水準であることから、今後の動向を注視するとともに、接触歴を調査する保健所への支援が必要であります。

(2)、新規陽性者における接触歴等不明者の増加比は、100%未満であることが減少傾向の指標であり、8月26日時点の増加比は、86.7%で、前週に引き続き100%未満でありましたが、減少の速度は、前週の78.4%よりも鈍化しており、再度、増加に転じることへの厳重な警戒が必要であります。

これ、付いているグラフですね。グラフの③ってところの、新規陽性者における接触歴等不明者、その後ろに増加比の折れ線グラフが出ています。

8月5日のところから、どんどん下がって100%を切っている状況ですが、8月12日、19日の間ぐらいから横ばいで、ちょっとやや上がっている。

これが実効再生産数と対応するような数字でして、下がり切らないのが、今回の嫌なところだと思います。

(3)ですね。感染経路不明な者の割合は、8月26日時点で60.6%と、高い傾向であります。

以上からですね、総括コメントとしては、一番上の「赤」、「感染が拡大していると思われる」と、新規陽性者数と接触歴等不明者数は減少傾向にあるものの、高い水準にとどまって

います。都全域、それから、リスクの高い高齢者に感染が広がっているということからですね、矢印は3つが下向きになり、そして増加比が横ばいになってしまいました。

3つ下向きになっているところではあるのですが、ここはやっぱり「赤」のままですということで考えております。

続きまして、「医療提供体制」について、お話をさせていただきます。

最初の「検査の陽性率（PCR・抗原）」ですね。

PCR検査数のうち、陽性者数の割合は8月26日時点で4.9%と、8月19日の5.5%と比較し、若干減少しました。

8月18日から8月24日までの検査件数は28,094件、前週の31,977件及び前々週の29,229件より減少しております。

今週は、7日間平均の検査数は少なかったのですが、陽性率は穏やかに減少しています。

これは、国の指標で、ステージⅢの10%より低い値であり、ステージⅡ相当になります。

「救急医療の東京ルール of 適用件数」です。

救急ルールの適用件数は減少しており、8月25日は48件となりました。

7日間平均も、先週の51.7件と比べ、49件となっております。減少しております。

「入院患者数」です。

最大確保病床は、都は4,000床に占める入院患者数の割合は、8月26日時点で38.1%となっており、同時点の確保病床数、都は2,600床、前週と比べて100床増えておりますが、それに占める入院患者数の割合は58.5%となりました。

(3) に行きます。

入院患者数は依然として1,500人を超えており、高い水準となっておりますが、医療機関への負担が長期化しております。

8月18日から8月24日の新規入院患者数が464人、退院患者数が254人となっております。陽性者以外にも、陽性者と同様の感染防御対策と個室での管理が必要な疑い患者を、1日当たり、都内全域で200人前後受け入れております。

入院調整本部の対応件数は、約9割以上が無症状の陽性者及び軽症者でした。

(6) です。

入院には多くの労力がかかるため、確保病床数は、当日の入院できる病床患者数ではありません。病院ごとの当日に対応できる患者の数には限りがあることをご理解ください。

(8) です。

8月18日から8月24日までの陽性者1,553人のうち、無症状の陽性者が17.6%を占めていました。宿泊療養施設を増やす中、8月26日の宿泊療養施設の利用者は267人、自宅療養者は445人でありました。

11に飛びます。

保健所から入院調整本部への調整依頼件数は、1日70件程度で推移していますが、緊急

性の高い重症患者の依頼件数の割合が増加しています。特に土日祝祭日は、受入可能な空き病床数が少なく、調整が難航しています。

入院調整の結果、入院先医療機関が決定した後、症状の改善や患者の希望でキャンセルする事例が1割程度、これ先週1、2割って言っていたので、ちょっと減っております。説得するようになったということですが、発生しています。

「重症患者数」です。

(1)、東京都は、その時点で、人工呼吸器又はECMOを使用している患者数を重症患者数として、医療提供体制の指標としてモニタリングしていますが、8月23日に39人まで増加しましたが、8月26日には前週とほぼ同数となりました。

8月26日時点の重症患者数は31名で、年代別内訳は40代が2名、50から60代が13名、70代以上が16名であり、性別では、男性が27名、女性が4名となっています。

陽性判定日から重症化まで、これは人工呼吸器を導入するところまでですけれども、平均4.5日で、軽快した重症患者における人工呼吸器の導入から、離脱までの日数の中央値は8.0日でありました。

新規陽性者数が、依然として高い水準ながらも漸減している中、重症患者数は横ばいであります。第一波の際には、重症患者数のピークは、発症日の新規陽性者数のピークの約3週間後でありましたが、今回も同様の推移をたどっている可能性があると思われ、重症患者数の今後の推移に警戒が必要です。

重症患者数は、40代以上で増加しており、引き続き、家庭内における家族間、職場及び医療・介護施設内における感染防止策の徹底が必要であります。

5番目です。

8月18日から8月24日までに報告された死亡者数は11人であり、前々週の1人、前週の7人から増加傾向にあります。今後の死亡者数について、注視する必要があります。

重症者用の病床の最大確保病床数が500床、現時点での確保病床数は150床であります。

重症患者においては、ICU等の病床の占有期間が長期化することを念頭に置き、病床を確保する必要がありますが、レベルIIの重症病床300床を準備するためには、医療機関は第一波のピーク時と同じように、予定手術や救急の受け入れを大幅に制限せざるを得ないと考えます。

こういう場合で、重症患者数は30人台で、高い数字でとどまっております。

医療機関への負担は長期化しておりますし、重症患者は横ばいであることから、このまま「橙」で、上から2番目で、私たちとしては考えております。

以上です。

【危機管理監】

猪口先生、ありがとうございました。

それでは、ただいまご説明がありました、感染状況・医療提供体制の分析の報告につきま

して、何かご質問、ご意見等ありましたらお願いをいたします。

知事から今のご説明について何かございますか。

【都知事】

重症者で40代の方ですね。何か既往症をお持ちになるのですかね。

【猪口先生】

その情報になりますけど、そういう詳しい話は、このモニタリング会議には出ていなかったのですけれども、多分、そういうことだろうとは思いますがね。

糖尿病とか肥満の方で、若くてもあるっていうと、そういうことが、私の中でも何人か経験しています、第一波の時も。

【都知事】

世界的に見ますと、その重症者の数も、日本、東京、抑えられてはいるかと思いますが、今、お話あった糖尿とかね、そういった点で言うと、日本人の体型からすると、そういう率は少ないと言えるのでしょうかね。これは世界での比較になりますけどね。

【猪口先生】

そうですね。東洋人っていうか、アジア人全体にそういう肥満とかいうのが少ないだろうと思いますけれども。今回は、第二波は、やっぱり第一波の時に、治療がある程度、それぞれの施設がわかってきたことだとか、それから軽症でわかるということが非常に多いので、それから重症化したり、これは本当にエビデンスが、みんなでエビデンスを一生懸命探している最中なのですけれども。たぶん、こういう対応した方が良いのだろうという、それぞれの軽症者に対する、重症化させない、そういう何か治療法というのがですね、それぞれの施設である程度確立してきているっていうのも、エビデンスが無いのですよ、無いのですが、みんなでそういうところがあるのではないかとは言っているのです。

【都知事】

それは、医療現場の皆様方のご努力に感謝あるのみであります。

そうやって抑えていただいているということ、改めてこの場でお伝えしたいと思います。

ありがとうございます。

【猪口先生】

どうもありがとうございます。

【危機管理監】

それでは、次の都の対応ということにつきまして、何かご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

よろしいですかね。

それでは、会議のまとめといたしまして、最後に知事からご発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【都知事】

本日、第 8 回の東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議、本日も猪口先生には、お出ましいただいております。ありがとうございます。

また、専門家の先生方、先週に引き続きまして、分析をしていただきました。

「感染状況」については最高レベルの 4 段階目で、「感染が拡大していると思われる」で、「赤」、そして「医療提供体制」については 3 段階目の「体制強化が必要であると思われる」との総括コメントをいただいたところでございます。

そして、この「感染状況」であります、手短にまとめると、新規陽性者数は減少傾向にあるが、減少の速度は緩やかになっている。

年代別では、全年齢層、特に重症化リスクの高い高齢者に感染が広がっている。

感染経路については、全世代の合計では、家庭内での感染が最も多い。次いで職場、会食となっている。

70 代以上で見ると、施設での感染が最も多く、次いで家庭内での感染になっている。

そして、重症者の患者数については、引き続き今後の推移に警戒が必要であるとのことでもあります。

それから世代別で見ると、70 代以上の割合、重症者の世代別で見て、70 代以上の割合が半数を占めているということ。

これらのご指摘をいただきました。

そして、これらの、ただいまのご指摘を踏まえまして、改めて都民、事業者の皆様をお願いをしたいと思います。

重症患者数の増加を抑制するためには、重症化リスクの高い高齢者への感染拡大を防止することが重要。

高齢者は、施設内感染と家庭内感染が多い。

そして、高齢者施設においては、職員の体調管理、面会者への感染予防など細心の注意を払っていただく必要がある。

同居の家族に高齢者がおられる場合は、改めて感染防止対策を万全にさせていただく。家庭内でも日用品を別にするなど、日常の細かいことを含め、ご注意をいただきたいということでもあります。

そして、家庭内感染の防止のためには、外出先からウイルスを持ち込まないことが重要で

ありまして、また、都民の皆様方には、外出先での手洗い、消毒など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。

会食の際には、長時間の飲食・飲酒、そして大声で話すこと、至近距離で話すこと、これをお控えいただくことであります。

事業者の皆様方にはですね、これまでもご協力をいただいております、大変感謝申し上げます。

ガイドラインの遵守、ステッカーの掲示についても、改めて徹底していただきたいので、引き続きのご理解、ご協力をお願いいたします。

続いて、二つ目のカテゴリーであります「医療提供体制」については、今いただきましたコメントを踏まえまして、引き続き体制の強化を図って参ります。

患者受入れ体制であります、2,800 床の確実な確保に向けて、都内の医療機関に依頼をしているところで、先週からさらに 100 床増えまして、現在は 2,600 床、この内訳は、重症用が 150 床、中等症用が 2,450 床となっております。

そして、ホテル、宿泊療養施設であります、現在 3,000 室を超える体制となっております、更なる活用を進めて参りたいと存じます。

それから自宅療養であります、これはですね、アプリを活用した「健康管理システム」を新たに導入することといたします。

自宅で療養される方々が、個人のスマートフォンに健康状態を入力していただく。それによって、保健所で即時にその情報が確認できるというものでございまして、これは業務が課題となっている保健所の負担軽減にもつながるということでもあります。

まずは、多摩立川保健所の方で先行導入した上で、他の保健所にも拡大をしていく予定といたします。

皆様方の一層のご理解・ご協力、都民の皆さん、事業者の皆さん、また医療現場の皆様方、それぞれにお願いをさせていただきます。

本日のモニタリング会議のまとめとさせていただきます。

以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第 8 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。

ご出席ありがとうございました。